

# 八千代市平戸の民俗行事「お釈迦講」と「大川施餓鬼」

蕨 由美

## 1. はじめに

平戸は、日蓮宗のムラである。旦那寺は東照寺で、市川市の中山法華経寺の旧神保領に属する寺院である。旧神保領は、白井（白井市）から八千代市北西部（平戸・佐山・島田・島田台・小池・真木野・神久保いものくぼ）、船橋市東部（坪井・大神保・小室・小野田・車方）にかけての 13 のムラからなり、その各旦那寺 13 か寺の檀家で「神保組千部講」を構成して、地域として歴史的に強い宗教的結束を保ってきた。

日蓮宗の千部講とは「千部会せんぶえ」を催して、法華経の思想が集約される経典の題目「南無妙法蓮華経」を一千部読誦することを目的とする題目講の一つで、神保組千部講は、13 か村持ち回りの千部会をほぼ毎月行うほか、8 月 16～24 日にムラ毎に「施餓鬼」（盂蘭盆施餓鬼会うらぼんせがきえ）を、そして最大のムラ行事として毎年 8 月 28 日に「川施餓鬼」（大川施餓鬼会）を 12 年周期の持ち回りで行っている。（表参照）

なお、『千葉県歴史・別編民俗 1（総論）』では、「12 か寺」となっているが、13 か寺で、家数の少ない真木野と神久保では、千部会を真木野妙徳寺、施餓鬼を神久保東福寺が行い、川施餓鬼を真木野と神久保が交代で、つまりムラとしては 24 年に 1 回の周期で行う。

また、川施餓鬼の順番は、千部会の順と同じで、佐山・平戸・島田・島田台と回っていく。『船橋市史・民俗文化財編』では、「千部会の逆回り」という記述されているが、実際は順送りであった。

表 千部講の寺院と千部会・施餓鬼の日程、川施餓鬼の施行年

| ムラ  | 市    | 寺   | 千部会       | 施餓鬼      | 川施餓鬼    |         |
|-----|------|-----|-----------|----------|---------|---------|
| 佐山  | 八千代市 | 妙福寺 | 1 月 19 日  | 8 月 19 日 | 平成 19 年 | 平成 7 年  |
| 平戸  |      | 東照寺 | 2 月 8 日   | 8 月 17 日 | 平成 20 年 | 平成 8 年  |
| 島田  |      | 妙泉寺 | 3 月 23 日  | 8 月 17 日 | 平成 21 年 | 平成 9 年  |
| 島田台 |      | 長唱寺 | 4 月 10 日  | 8 月 16 日 | 平成 22 年 | 平成 10 年 |
| 坪井  | 船橋市  | 安養寺 | 6 月 13 日  | 8 月 16 日 | 平成 23 年 | 平成 11 年 |
| 大神保 |      | 西福寺 | 7 月 18 日  | 8 月 24 日 | 平成 24 年 | 平成 12 年 |
| 白井  | 白井市  | 秋本寺 | 7 月 27 日  | 8 月 17 日 | 平成 25 年 | 平成 13 年 |
| 小室  | 船橋市  | 本覚寺 | 9 月 29 日  | 8 月 21 日 | 平成 26 年 | 平成 14 年 |
| 小野田 |      | 光明寺 | 10 月 17 日 | 8 月 18 日 | 平成 27 年 | 平成 15 年 |
| 車方  |      | 法井寺 | 11 月 10 日 | 8 月 23 日 | 平成 28 年 | 平成 16 年 |
| 小池  | 八千代市 | 妙光寺 | 11 月 23 日 | 8 月 20 日 | 平成 29 年 | 平成 17 年 |
| 真木野 |      | 妙徳寺 | 12 月初子    |          | 平成 30 年 |         |
| 神久保 |      | 東福寺 |           | 8 月 22 日 |         | 平成 18 年 |

毎月の千部会は、佐山での正月 19 日の初祈祷から始まり、平戸では 2 月 8 日、東照寺に 13 か村の千部講が集まって行われ、その後、各ムラの寺を回り、12 月初子の日、中山法華経寺の荒行経験の修法師が厳寒の中、水をかぶって祈祷する水行と星祭り修法が加わった真木野妙徳寺の千部会で一年が終わる。

現在は車で移動するが、かつては徒歩で毎月各寺を巡ったというこの千部講の行事は、各ムラが当番で尽力する接待を受け、また他村の人々と交流できる機会でもあり、「巡り千部」として、真言宗地域の大師廻りに匹敵するムラ巡りの地域的な宗教行事であった。

また、平戸には千部講のほか、ムラの信仰行事として庚申講、熱田神社での晦日こもりなどがいくつかの講があった。その中で、現在も活動しているのは、ムラの女人講に匹敵する安産子育ての講「お釈迦講」である。

旧村平戸の民俗行事を調べるにあたり、今回は、このお釈迦講と、平成 20 年（2008）に 12 年ぶりに平戸に巡ってきた神保組千部講大川施餓鬼を取材させていただいたので報告します。

## 2. 平戸のお釈迦講について

2008 年 4 月 8 日花祭りのその日は、あいにく朝から風雨が強く、平戸橋付近の印旛沼の水も濁流のように逆巻いて昔話の暴れ沼を彷彿させるような風景であった。このため、無理は禁物と外出を断念された方も多かったが、この風雨について 8 名のご婦人が集まってお釈迦講を行った。以下はその時の取材メモである。

### ① 講の構成

本来は、出産・育児中の若い嫁による女人講。

屋号をもつ旧家 1 軒から 1 名が講員となり、姑から嫁への世代交代が行われてきた。

最近は世代交代をしていない家がほとんどで、今は約 60 軒の家の中年を過ぎた世代の女性で構成されている。神社の祭りに参加する旧家の数は 81 軒だが、この講には他地域からの居住者の多い「台ダイ組」

（平戸の台地）からの参加は少なく、当番は、北前 3、西前 3、台組 1 の各組 5 軒ぐらい 7 組で構成され、月毎の持ち回りで組ごとに講の飲食の準備をする。（写真 1）



### ② 講を行う日

お釈迦様の誕生日にちなみ、毎月 1 回 8 日が原則だが、当番の都合（休みの日、農繁期・特に田植や稲刈りなど）で 8 日に近い週末などを臨機応変に決める。

4 月 8 日のお釈迦様の誕生会と、2 月 15 日の涅槃会は、「キマリ日」で日程変更はない。

### ③ 講の場所と食事の変遷

現在は東照寺本堂で拝んだ後、庫裏でお茶・漬物・菓子などをいただきながらおしゃべりをする。漬物など簡単な手作りは当番の持ち寄り。釈迦誕生会の日、別にお赤飯が用意される。

以前は当番の各家で講を開き、煮物やてんぷらなど手作りのごちそうをたくさん用意したが、25年ぐらい前、夏に新川沿いを雹が降って農作物が全滅したことがあり、その夏はどの家も野菜など食べるものがなくなってしまった。この降雹事件以来、当番の家に負担がかからないよう、お寺で行うこととし、食事も簡素化された。

### ④ 宗教行事の内容

東照寺本堂では、太鼓をたたきながら、始めは、内陣中央の日蓮上人像に向かって「法華自我偈」（「開経偈」と「妙法蓮華經方便品第二」）と「南無妙法蓮華經」のお題目10回を唱える。唱え終わると、次に、左脇陣の釈迦如来像に向かい、同様に「法華自我偈」とお題目を唱える。

（写真2）

お産を控えた家があるときは、安産を願って、さらにもう1巻唱える。

当番は食事の準備で、拝むことには参加しない。

お経の内容については、お寺のご住職が毎月勉強会を開いて教えてくれたことがあったので、理解しているという。

釈迦誕生会の日、お寺が準備した花御堂の中に奉られた誕生仏に甘茶を灌ぐ。この甘茶は身体の悪い所につけるとよくなると信じられている。

拝んだ後の食事の席に「お上人様」（ご住職）をお呼びする時もあるが、話題が女同志の世間話中心なので気の毒な気がする感想もあった。



### ⑤ 講の費用

講金として毎月百円を集めた時もあったが、現在は、お産のある家が、安産のお願い参りとおかげ参りの時に寄進する千円を積立てて、まかなっている。

### ⑥ 他の女性の講

女人講は、この「お釈迦講」だけで、別に他世代の講などはない。世代交代がなく最近高齢化してきて子安講らしさは薄らいでいるが、イエの単位での安産祈願は今もこの講の大事な趣旨である。

拝むことが苦手という今の若い女性は、神社境内の「やすらぎの家」で「婦人会」を隔月1回開いて懇親している。こちらの参加者は常時11人とのことである。

### 3. 平戸の大川施餓鬼について

「はじめに」で、述べたように大川施餓鬼は、12年に1回、他村の千部講の方々と各寺院の「お上人」(住職)を迎えて行われる行事で、平戸もムラを挙げて準備してきたが、2008年8月下旬は「ゲリラ豪雨」が関東地方を襲う毎日が続き、この日も朝から地面をたたきつけるような強い雨が降ったり止んだりの天候であった。

その蒸し暑さの中、東照寺の向かいの空き地に臨時に設けられた駐車場には、各ムラからの車が集まってきていた。この日のルポを、平戸の大川施餓鬼について行事の流れに沿って報告する。

#### ① 本堂での法要

この日の準備は、当番が前日までに買い出しなど済ませ、午前8時ごろから本堂前のテントなどの会場設営、大塔婆の建立などの準備をして参加者を待つ。当番は、北前と西前の檀家(檀家でない家はない)から1名ずつ出る。テントの下で、各ムラから持参した金一封を受け付ける。

本堂内陣には、回向を願う故人の戒名などを記した経木の小さな塔婆が積まれ、きゅうりと茄子を刻んでハウセンカの花を散らしお米をのせた「水の子」、閑伽水につけたミソハギの花束、お米を盛って经文を書いた5色の旗を立てた桶などを並べた施餓鬼棚が設けられている。施餓鬼棚の準備はお寺さんで行うとのこと。(写真3)



「施餓鬼会」とは餓鬼道で飢えに苦しむ者(餓鬼)に飲食をほどこすという意味の法会のことで、盂蘭盆施餓鬼会では新盆にあたる霊位の供養を行い、大川施餓鬼会では特に水難事故や戦災などで亡くなった諸霊の供養を行う。飢えと乾きに苦しむ亡き精霊を供養することにより、自分の心を豊かにする法会でもあるそうだ。

午前11時、呼び太鼓の音とともに本堂に各寺の住職、千部講の人々約120人が参集、当番の東照寺住職が導師を務め、「開経偈」「自我偈」のほか、「堤婆達多品十二」など読誦し、12時前まで法要が行なわれる。

#### ② 平戸橋たもとでの法要

新川に架かる平戸橋のたもとは、明治33年と明治39年建立の題目を刻んだ2基の石塔がある。その供養塔の後ろに、白木の大塔婆が新しく建てられ、その横にドラム缶の炉が





用意された。

大塔婆には題目の下に「戦災死歿水難横死霊位水向供養塔」と回向の趣旨が記されている。\*

正午ごろ、運よく雨もやんで、参集した全員が東照寺から、この塔婆のもとへ集まってきた。

僧侶が一同揃って読経する中、各ムラの参加者が経木の塔婆の束を炉に投げ込んで燃やす。(写真 4)



昔は、川辺から水に流したそうで、「流し塔婆」と称したという。

各ムラの参加者が燃やす塔婆は、先祖代々の霊位のほか各家の新盆の故人の戒名が記されているとのこと。どのムラも、新盆の家の者は、ムラ毎のお施餓鬼とこの川施餓鬼に参加するしきたりになっているようで、黒服の人も多い。(写真 5)

塔婆を燃やし終え、読経が終わると、一同また東照寺へと戻る。

#### \*大塔婆の記載銘文

- ・表面「南無妙法蓮華經 奉修 大川施餓鬼 法要一座 戦災死歿水難横死霊位水向供養塔也」
- ・右側面「南無多寶如来 願以此功德 普及於一切」
- ・左側面「南無釈迦牟尼佛 我等與衆生 皆共成佛道」
- ・裏面「維時 平成廿年八月廿八日 神保組千部講 建之」

#### ③ 東照寺庫裏での接待

12時半過ぎ、東照寺の庫裏の座敷では、平戸の当番の女性たちが、昼食の準備をして待つ中、各ムラ毎に席をとり、心づくしの接待が始まる。(写真 6)

昔は赤飯を炊いたり、おかずもいろいろ作ったりしたそうだが、今は、稻荷と巻き寿司、お新香、味噌汁、お豆腐、缶入りのお茶などである。

120 人もの人数なので、平戸の人の昼食は後回しらしく、本堂では奉納金の集計をしたり、休んだりしている。

時折雨が激しくなる中、食事を終えた参加者が挨拶をして帰るのを見送る。

平戸では、大川施餓鬼の度に記念写真を撮って本堂に飾るのが恒例で、手のすいた午後 2 時ごろ、晴れ間をみて住職と一同、集合写真を撮り、散会した。(写真 7)



来年は島田の妙泉寺の番、9月に入って訪ねてみると、高台の寺へ畑の農道を広げる工事を行っていた。地権者の篤志で、来年の大川施餓鬼に向けて、車で直接入れるようにするのだという。

妙泉寺の住職は都下にお住みで、行事のあるときのみ帰山する小さな寺院であるが、来年の大川施餓鬼の準備は、島田の人々によってもう始まっていたのである。



#### 4. その他の民俗行事の現状

##### ① 晦日ゴモリについて

『よなもと今昔』10号では、「毎月晦日に熱田神社でにお年寄りが集まり、掛け軸をかけてお題目と自我経を3回唱える」という「コモリ」（晦日ゴモリ）が報告されているが、このコモリの行事は、2006年12月に終了し、2007年1月からやっていない。

昔は男の人にも参加していたが、いつのまにかお釈迦講のメンバーと同じ女の人だけになってしまった。

講があった時は、当番が前日に神社の掃除と買出しなどの準備をし、当日にそなえていた。現在は、神社の維持管理のため、おコモリの当番制を維持し、毎月1回掃除などを行っているが、人数が足りないので、2組ずつ回したほうがよいとの意見もある。

##### ② 庚申講について

平戸では、道地の庚申塚に天和2年（1682）から大正5年までの主に題目や「帝釈天王」を刻む日蓮宗系の庚申塔が並んでいる。

平成10年に建立された一番真新しい「庚申講中」銘（裏に「平成十年十一月吉日建立 平戸区一同」）の石碑は、江戸時代から続いてきた平戸の庚申講を終了した時の記念碑で、今は庚申講をやっていない。（写真8）



#### 参考文献

『よなもと今昔』10号 1992 阿蘇郷土研究サークル

『船橋市史・民俗文化財編』平成13年3月 船橋市史編さん委員会